

Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

患者・地域を考え病院の在り方を追求

⑬東京女子医科大学八千代医療センター (千葉県八千代市)



45度の角度をつけた設計により、各病室から景色を眺められる入院棟

東京のベッドタウンとして人口が増加している千葉県八千代市。東京女子医科大学八千代医療センターは市の要望を受け、2006年、急性期医療に特化した地域の中核病院として開院した。

緑に囲まれた入院棟の外観はW型で、どの病室からも景色を眺めることができる。建物は免震構造で、景観を損なわないよう立体式にした駐車場も災害時に緊急医療施設に転用できる設計だ。

同センターは感染対策を重視して、外来棟の専用出入り口から感染症室に入れる構造にした。

外来棟1階受付では呼び出し機(PHS)が渡される。患者は呼び出しまでの間、医療関連の図書館「からだ情報館」や中庭に面したレストランなどで過ごすことができる。

3階のリハビリテーション室の前にある「空中庭園」は、患者や家族の憩いの場であるだけではない。ミニ階段を活用しての歩行訓練や、箱庭で作業療法を行うことができる。

また、この階には、女性医師が対応する「女性科外来」もあり、女性患者から好評だという。

ユニバーサルデザインと省エネにも工夫がしてある。



「やちよ健康フェスタ」では小児病棟に「バルーンマン」が登場、子供たちの笑いが響いた

吹き抜けで開放的な雰囲気のエスカレーター



院内のどこにいても患者と連絡が取れる呼び出し機



「空中庭園」ではミニ階段などを使ってリハビリもできる



森をイメージした小児科外来の待合室



八千代市の豊かな自然と大地の恵みを象徴した8匹のキャラクター「グリーンズ」。ICカードや職員の制服などに使われている

エスカレーターの天井部に大きなガラス窓を設けたことで、待合室などに柔らかな自然光が差し込んでいる。廊下には高低2段の手すりを据え付けたり、階段やトイレの照明をすべて感知式にしたりしている。

入院棟2階の中央手術室には、日本で初めて「スカイブームシステム」を導入した。手術中の安全を確保するため、医療機器、モニターを宙づりにし、床にはコード類がないようにした。

3階は千葉県に2つしかない総合周産期母子医療センターだ。切迫早産や合併症のある妊婦などのハイリスク出産に対応し、同県で最も多くの母体

搬送を受け入れている。

入院患者や面会者、職員には電子キーと電子マネーの機能を兼ね備えたICカードが配布される。売店やベッドサイド端末などへの支払いのキャッシュレス化は患者から好評のようだ。

同センターは健康意識の向上と地域との交流を目的に、07年から毎年夏と冬に「やちよ健康フェスタ」を開催。医師・看護師体験コーナー、小児病棟でのイベント、ミニコンサートなどを行っている。地元ではフェスタを楽しみにしている人もおり、開院4年ですでに地域にとけ込んでいた。

「働きやすさ」が周囲に与える安らぎ

⑭湘南鎌倉総合病院 (神奈川県鎌倉市)



エントランス。十分な採光と木調の内装。随所に緑が配されている

9月1日に鎌倉・岡本の地に新築移転したばかり。同日には開院式を挙げる。松尾崇・鎌倉市長や藤沢市選出の阿部知子衆議院議員ら、約1万6000人が出席。政治や行政の期待がうかがえる。病院周辺は人であふれ、最寄りの大船駅から病院まで車で4時間かかる人も出る盛況だった。

取材日はリニューアルから2週間足らず。だが、早くも湘南鎌倉総合病院は新たな展開に向けて走り始めていた。塩野正喜院長が語る。

「新病院の開設で地域の医療問題がすべて解決するわけではない。まだまだ足りません」

1988年の旧病院創業以来、市立病院のない鎌倉市内では中心的な役割を担ってきた。新病院は救急に特化。年中無休、24時間オープン掲げ

ている。現在は救急搬送が月に35件のペース。入院患者はすでに500人に達している。毎日50人が入院し、50人が退院する状況が続く。

利用者の移動を少なくするため、心臓・脳卒中・お産の各センターでは外来と病棟を一体化。ワンフロアにすべての機能を集約化した。

旧病院の新棟はクリニックと老健施設に生まれ変わり、旧棟は建て替えて、がん医療に取り組むオンコロジーセンターとなる予定だ。

「病院は地域の社会資源。住民に評価され、支えていただかないといけない」(塩野氏)

経営母体である徳洲会グループで共通に取り組む「公開医学講座」にも力を入れている。1カ月に1000人が目標。9年間で10万人を集めた。



優美さをたてる新病院。「病気を治すには環境の力も大きい」(塩野氏)

6階の空中庭園。妊産婦が緑の中で散歩を楽しめる



形成外科・美容外科の待合室。部長の山下理絵医師は斯界の第一人者



畳のある分娩室。自由な姿勢で出産するアクティブバースで使用



4人床の大部屋。大きな間仕切り家具で区切られ個室的に使える



特別個室。高級ホテル並みのアメニティを実現している

「病院の中身を外に表現する手段。情報を出すことで信頼関係が生まれる。患者が何を希望しているかをつかむ貴重な機会でもある」(同)

昨年10月、全国で13番目の「職員が働きやすい病院機能評価」ホスピレートの認証を受けた。7割を占める女性スタッフの処遇は課題の一つ。

現在、旧病院の敷地内に365日、24時間フル稼働の保育施設を設けている。生後3カ月から小学

校卒業まで、ここで面倒を見る。師長・主任クラスの看護師を中心に女性職員がキャリアを全うできる体制づくりは今も進行形である。

今後は地域のボランティアに医療者と患者の間に入ってもらう計画もある。まずは職員に対する心配りを忘れず、患者や地域と共同で安らぎを作り上げていく医療機関の試みはこれからも尽きることはない。